

## 7-3 希少な野生生物の現状と保護

絶滅のおそれのある野生生物の解説書「レッドデータブック」は、滋賀県でも多くの種が危機的状況にあることを物語っています。特に保護が必要な野生生物は国の法律や県の条例により、捕獲・採集を罰則付きで禁止したり、希少な野生生物の保護のため生息・生育地保護区の指定を進めています。

### 1. レッドデータブック

国が最初のレッドデータブックを1989年に刊行し改訂を重ねるなか、滋賀県でも県版レッドデータブックを2000年度から5年ごとに出版しています。ともに版を重ねるにつれ、掲載種数が増えるとともに現状評価が深刻化する種が多く、滋賀県でも野生生物が危機的な状況にあることを物語っています。



写真 7-3-1 「滋賀県レッドデータブック2015年版」

### 2. 法令による保護の枠組み

絶滅のおそれのある野生生物のうち特に保護が必要な種は「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」の国内希少野生動植物種に指定されています。県では「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」により、指定希少野生動植物種として計31種を指定し生きた個体の捕獲・採集を禁止するとともに、県版レッドデータブックの上位3カテゴリーに評価される希少野生動植物を対象とした生息・生育地保護区を計10箇所指定しています（種数・箇所数は2017年12月時点）。さらに、県は「イヌワシ・クマタカ保護指針」を策定し、開発行為における配慮を求めています。

### 3. 厳しい規制と緩やかな規制

法令で指定されている種は絶滅のおそれのある野生生物のごく一部ですが、捕獲等の罰則付き禁止という「厳しい規制」があります。これに対して、レッドデータブックの掲載種は具体的な規制はありませんが、開発行為に先行する環境影響評価で配慮が求められたり、地域で絶滅危惧種を大切にする活動が育まれたりするなど、「緩やかな規制」としての効果があります。「厳しい規制」と「緩やかな規制」のそれぞれの特徴を生かして希少種の保護を進めることが大切です。

自然環境保全課

## 琵琶湖周辺で見つかるイタチムシ トピック

### 1. 田んぼで発見イタチムシ

滋賀県は琵琶湖とその集水域の水を活かした水田がたくさんあります。そして、水田は多くの生き物を育む場所でもあるのです（写真 T-1）。田んぼの生きもの全種リスト（桐谷圭治編）によれば、水田には5000種を超える生き物が生息していることが知られており、しかもまだリストに追加すべき生き物が数多く残っていることがわかっています。

イタチムシもそんなリスト漏れ生物のひとつです。水田ではほぼ見られないと言われていましたが、なんと湖西の水田から40種以上が一度に見つかりました。ボーリングピンに二本の尻尾が生えたような見た目、古い論文でも「かわいらしい小虫」と表現されるわずか100μmほどの微小生物です（福井,1930）。



写真 T-1 真野町の水田  
多様なイタチムシ類が生息している

### 2. 新種と珍種

水田から40種以上も見つかったイタチムシたち、そのうち特徴的な2種がすでに新種として記載されています。ケトゲトゲオイタチムシ (*Dichaetura filispina*) とトゲウロコイタチムシ (*Lepidodermella acantholepida*) です（写真 T-2）。特にトゲオイタチムシの仲間は世界でも5種しかないレアな珍種イタチムシであるにもかかわらず、一か所の水田から新種を含めて3種も発見されています。

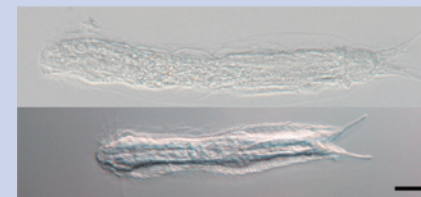


写真 T-2 水田から見つかった新種イタチムシ  
ケトゲトゲオイタチムシ (上)  
トゲウロコイタチムシ (下)  
Bar=10μm

### 3. 琵琶湖と集水域の多様性

琵琶湖自体非常に生物多様性の高い場所です。その多様性を明らかにすることも重要ですが、実はその周辺の水域も負けず劣らず多様な生き物を育てているのです。

琵琶湖博物館 鈴木 隆仁